

先生、見て見て





先生、見て見て

「先生、見て見て」「できたよ!」「やった!」「いやだ」「きれい」

幼稚園は、初めて出会う数々のできごとでいっぱいです。その中でいろいろな感情をだしながら、社会生活に必要なことを学んでいきます。

初めて一人でできたこと。

一人ではできなかつたけれど友達がいたからできたこと。

みんなで頑張ったからできたこと。

そんな経験をたくさんして、できた喜びを味わい、身近な人に認めてもらいながら、自分のことを好きになってほしいと思います。

～先生見て!～

ガラガラうがい

幼稚園に入園すると基本的な生活習慣を身につけるため、まずトイレの使い方や手洗い、うがいの仕方を教えてもらいます。

4歳児は、上を向いて「あ～」というガラガラうがいがうまくできません。のどの奥まで水が届かないのです。できなくともしたつもりになるところからのスタートです。

でも、ようこちゃんは、どうしてもガラガラうがいがしたいようです。「こう?」と聞きつつひたすらうがいをしています。

ある日、とうとうガラガラうがいをマスターしたようこちゃん。「先生、見て見て!」と、とろけるような笑顔で見せにきてくれました。「上手にできたね。」ほめてもらったようこちゃんは、「先生、見て見て!」と園中の先生たちに見せてまわっています。その日は何回うがいをしたことでしょう!

うがいごときで…と思うかもしれません。

しかし、できなかつたことができるようになるこの1歩がとても大切なのです。

ヤットコ

“ヤットコ（三角竹馬）”は5月に親子で作った後、園で数ヶ月かけて取り組み、運動会で披露します。

ほぼみんなが乗れるようになった頃、あつし君は後ろには進むのですが、どうしても前に進みません。あつし君のお母さんは、

「みんなは乗れているのに、どうしてもこの子は前に行かないのかしら。運動会でできなかつたらどうしよう。練習しなさい。」

と、焦り気味です。

「大丈夫よ、後ろに歩けるということは、前にも歩けるということよ。」

私は笑いながら答えました。それからしばらくして、あつし君はヤットコに乗れるようになりま

した。

「先生の一言で、肩の力がすとんと落ちました。できると信じて見守ることができました。」

後からお母さんのおっしゃった言葉です。お母さんの緊張が伝わっていたのかもしれませんが。あつし君は寒い冬が来るまでずっとヤットコ遊びをしていました。



～先生聞いて！～

幼児は、自分の思ったことを知っている言葉で表現しようとしています。それを私は“4歳児語録”“5歳児語録”と名付けています。感じる心、伝えたい気持ちを受け止めたいと思います。

その1、

夏休みを前に夜空に咲く大輪の花、打ち上げ花火が出てくる絵本を読みました。

「見たことあるよ～」

「きれいだった」

とみんなが口々につぶやいていた時のことです。

ゆうこちゃんは

「わたし、打ち上げ花火嫌い!」

と言いました。（こんなにきれいな花火なのにとうしてだろう）と不思議顔のわたしに「だって、お月様がやけどをするでしょう・・・」

ゆうこちゃんは、やけどの痛さを知っていたのかもしれませんが。その言葉を聞いて、先生は読んで絵本の花火の横にお月様が描かれていたのを思い出しました。

ゆうこちゃんのやさしい心、すてきだよ。

その2、

ウサギを飼っていた幼稚園でのこと。4歳児のそうたくんが眼を真ん丸くして私の所にとんで来ました。

「せんせい、大変や～、ウサギがウサギを食べてる。早く来て～」

2羽がケンカをしているのかと思い、あわててウサギ小屋に行ったわたしは、思わず微笑んでしまいました。1羽のウサギが毛づくろいをしていたのです。（確かにウサギがウサギを食べている・・・）妙に納得をしたのでした。

うさぎを心配してくれてありがとう。

その3、

絵本の大好きなかなちゃん。友だちと走り回るより一人で絵本の世界に入り込み、絵を描いている子どもでした。しとしとと降る雨に誘われるように保育室から出て、雨を見上げています。「どうしたの？」と聞いたわたしに「せんせい、雨って透明なのにどうして見えるのかなぁ。」とつぶやきました。（詩人！）かなちゃんの感じる心はすごいね。



～ペア活動～

幼稚園では4歳児と5歳児がペアになって異年齢活動をしています。

たった一年しか違わないのに、5歳児は自分を抑え、4歳児に合わせようとします。4歳児は自分だけを見てくれる5歳児のペアに安心感を持ち、信頼していくようになります。その関係は、心地よい人間関係の基になります。

あっ、泣いてる

園の中を巡る園内探検や初めての身体測定では、5歳児がリードして活動します。

5歳児のユウキ君は、自分の思いをしっかり持っていて、自分の思い通りにしたいタイプの子供です。ペアになった4歳児のアイコちゃんもまた、同じタイプの女の子で保育室からは

「いや、したくないの！」
という声がひびいていました。

「あ～あ、今日もいうこと聞いてくれなかった。」

一緒に活動をしようと誘うゆうき君は、困り顔です。

ある時、自分の保育室でゆうき君が、
「あれ、あいこちゃんの声や、泣いてる…」
と言いました。確かに離れた保育室からあいこちゃんの泣き声が、かすかに聞こえてきます。

「だいじょうぶかなあ」

「あいこちゃん、よく泣くからなあ・・・」

「すぐ泣き止むかな」

ずっと気にしています。

ゆうき君の顔は、優しさに満ちあふれていました。

ぼく、サトシ君とペアになりたい。

いつき君は、4歳児の時お母さんが大好きで離れられず、なかなか幼稚園の生活になじめませんでした。朝から泣くのが日課でした。

ペアの相手である5歳児のよしお君は、毎朝の体操に誘いに来てくれますが、もちろん知らん顔で泣いています。他の4歳児は、5歳児が迎えに来てくれると、ちょっぴり緊張したり喜んだりしながらついて行きます。いつも一人のよしおくんはどんな気持ちだったでしょう。しかし、よしお君は

「したくなったら、おいでな。」
と一声だけかけて体操にいきます。決して無理強いはいしません。そんなよしお君に安心をしたのか、次第にいつき君は、よしお君の誘いに応じるようになっていきました。

いつき君が5歳児になった4月。
「先生、ぼくさとし君とペアになりたい。さとし

君はよしお君の弟やろ。今度はぼくが世話をしてあげたい。」

子供同士のかかわりから相手の気持ちにより添うことの大切さを教わったように思います。



～輝く心との出会い～

やっと勝てたりレー

5歳児のリレーは、勝負にこだわりを持っています。

しんご君はアンカーです。チームはいつも一番になれません。相手のチームのアンカーには誰もが認める速く走るしょう君がいるのです。しんご君はいつも家に帰って

「今日も負けた。」
とお母さんに言っていました。時には、泣きながら

「今日も勝てなかった。そう君と同じチームやったら勝てるのに・・・」
と。

そんな思いで迎えた運動会当日、なんと、しんご君のチームが勝ったのです。

「ぼく一人で競争したらしょう君に負けるけど、みんなで頑張って、みんなが速くぼくにバトンをくれたから勝ててん。」

仲間を思いやることができたしんご君、かっこよかったよ。

私はこうしたい！

運動会では、チームで活動する楽しさを知り、次は作品展に向けてグループで制作活動に取り組みます。

少人数の中で自分の考えを出したり、気持ちを我慢したりしてほしいと、担任が願うグループでのことです。

このグループは、色や作るものを多数決で決めることにしていました。何度となく多数決をしてきたある日、まさみちゃんが

「私のしたいことが、一度もできてない！」
と怒りました。まさみちゃんはいつも冷静で一番にルールを守る子供です。よく聞いてみると、
（多数決では確かに自分の思いが通らなかったが、こんなものを作りたいという強い思いがある。そ

れをわかってほしい。) というものです。

先生は、まさみちゃんがこんなことを言うのは初めてでびっくりした反面、主張したことに嬉しさを感じていました。そこで、子供たちに任せることにしました。

少しの沈黙の後、自己主張の強いゆみちゃんが、「私は、いいよ。まさみちゃんの思い通りにしても。」

と折れはじめました。他の子供たちも

「私もいい。」

と譲りはじめました。しかし、たかし君は

「多い順(多数決)で決めるって約束したからまさみちゃんが間違ってる。ぼくはいやや。」

と譲りません。

「でも、まさみちゃんは今まで、(こんなふう)に一回も言ったことないやん。」

「まさみちゃんの言うようにしても、きれいよ。」

と、たかし君に納得してもらおうとしています。

そんな友だちの言葉を聞いて、とうとうたかし君は、譲りました。

多数決というルールも大事だけど、一人一人を尊重することが、もっと大切であることを感じている子供たちに拍手を贈りたいと思います。

どうしてもほしい

作品展ではお家の人やたくさんのお客さんに見ていただき、頑張ったことに自信を持ったようです。終了後、グループで作った作品を持って帰ることになりました。しかし、作品は2つで持つて帰りたい人が3人。ジャンケンの結果、こうすけ君が持つて帰ることになり、こうすけ君は大喜びです。

横で、普段おとなしいこうじくんが負け、いつになく大泣きをしています。一生懸命取り組み楽しく作った気持ちが、どうしてもほしい思いになったのでしょうか。先生がなだめても、なかなか泣き止みません。それを見ていたこうすけ君は、こ

うじ君の肩を抱きながら

「おれんちに來いよ」

と声をかけました。とたんにこうじ君の涙は止まりました。

桃太郎の鬼

1年の総まとめである生活発表会では、物語に流れる心情を汲み取りながら、子供達と場面を作っていきます。

“桃太郎”を題材にしていたゆりぐみは、元気なクラスです。個々は優しいのですが、自分の気持ちをうまく伝えるのが苦手でした。先生は、子供の気持ちを代弁しながら、一人一人を大切に思うことを伝えてきました。

大人は桃太郎に出てくる“鬼”＝悪者と捉えがちですが、ゆりぐみは違いました。

“鬼”が村を襲う場面で、子供たちは、

「鬼にもきつと理由があったんや。」

「そうや、食べるものがなくてお腹が空いただけ

じゃない？」

と共感したのです。

担任が願い続けてきた（行動はよくないけれど、人格そのものを否定してはいけない。）ということ子供たちが受けとめたのだと感じています。これからも、その気持ちを忘れずに成長してほしいと思います。



～若き日を思う～

先生、幼稚園の時、

一緒にようこま回ししたなあ・・・

高校を卒業するにあたり、けいごさんが、友達と訪ねてきてくれました。12年ぶりの再会です。幼稚園時代を懐かしみながら話していたときにけいごさんが言ってくれた言葉です。

けいごさんは、口数が少なく目立たない子供でした。幼稚園には居場所がないのかとずっと気になっていました。

3学期になり、幼稚園生活も残りわずかになり、何もできない自分に焦りを感じたころ、こま回しが上手なことを知りました。毎日、何度もこま回しをしました。彼にかなう者は誰もいません。こま回しをしているときのけいごさんは、いい顔をしています。

「けいごくん、すごいなあ」

「こま名人や」

とみんなも声をかけてくれました。

周りから認められ、自信を持ったけいごさんが、居場所を見つけられたできごとです。

12年も前のことを覚えてくれていたことと同時に、幼児期に自信をもった経験を心にずっと持ち続けてくれたことを嬉しく思いました。

先生、あの時あれでよかったんやで。

まだ、若かった私は子供たちに何とか約束を守らせたい一心で

「先生は悲しい。もう、ばらぐみの先生はできない。」

と言ってしまいました。指導力のなさを子供のせいにしてしまったのです。

その後、もう一度みんなで頑張ろうと約束をし直し、10数年経った時のことです。かずおさんが訪ねてきて、私に言いました。

「先生、叱ったこと、覚える？あの時、先生に

叱られて、ハッとした。あの時、先生に叱られてよかったんや。女の子も泣いてるし、僕らどうしようと思ったんやで。」

たった5・6歳である幼稚園時代のことは殆ど忘れていたろうと思っていた私は、正直驚きました。5歳の時のことを心に残して、こんなふうに考えていてくれたのかと思うと、教師の関わり の大切さを改めて感じました。

幼稚園は<生涯の人格形成の基礎を培う>場として、初めての学校教育であると言われています。家庭からの一歩を踏み出す社会、幼稚園は、温かい思い出でなければなりません。

これからも、子供たちのたくさんの笑顔と輝く瞳に出会えますように。



※文中の名前等は仮名です。

人権文化の花咲くまち 西宮をめざして 16

平成27年（2015年）3月発行
西宮市・西宮市教育委員会

文・田子ひかる
画・廣瀬 智恵

人権擁護委員をご存じですか？

人権擁護委員は、地域の皆さんに人権について関心を持ってもらえるような啓発活動や、法務局・市役所の人権相談所において、地域の皆さんから人権相談を受け、問題解決のお手伝いをするなどの活動を行なっています。

また、電話では相談しにくい、勇気がいるなどといった子どもたちの気持ちに配慮した、手紙による『子どもの人権SOSミニレター』人権相談も行なっています。

法務局西宮支局での人権相談 月曜から金曜の午前9時から午後4時まで
問合せ先 ☎0798-26-0061

西宮市役所での人権相談 1階市民相談課 毎月第1・3木曜日
午後1時から4時まで（受付は3時30分まで）
問合せ先 人権平和推進課
☎0798-35-3320

子どもの人権SOSミニレター 問合せ先 子どもの人権110番
☎0120-007-110・フリーダイヤル



平成27年（2015年）3月発行

編集：西宮市

〒662-8567 西宮市六湛寺町10番3号 ☎ (0798)35-3320